

一般質問



質問者 楠 明廣議員

運用状況の推移を見守りたい。

問 高齢者運転免許証返納サービスのその後は。

答 市民主導型の地域交通の展開や代替交通手段として高齢者タクシー事業等の要件緩和とも合わせながらの検討を考える。

問 国道179号線での歩道の設置及び県道44号(旧相生―山崎線)の今後の対応は。

答 兵庫県に今後も要望していく。地域の格差が発生しない整備計画を策定する。

問 リハビリテーション西播磨病院の救急体制の進捗状況は。

答 現段階において、救急医療の実施は考えていないとの報告があった。今後も継続して力強く要望していく。

問 住基カードを利用した証明書自動交付機を本庁及び各総合支所以外に山陽本線竜野駅、姫新線本竜野駅及び播磨新宮駅にも設置する方が、住民サービスから言うと利便性が良いのでは。

答 当面の間、住基カードの普及と自動交付機の

するの。

答 一般市税については、平成21年度は105億6067万5千円、平成22年度から平成24年度まで306億2116万9千円を見込んでいます。

問 揖保川及び栗栖川には昨年8月に発生した台風9号により大量の土砂が堆積している状態であるが、災害を未然に防ぐためにも浚渫計画はどのようになっているのか。

答 国土交通省姫路河川国道事務所にお問い合わせしたところ、緊急的な掘削計画は考えていないと聞いているが、今後も要望していく。

問 今後さらに河川増水による災害復旧により祇園グラウンドの代替地として使用している龍野実業高等学校跡地を本格的なサッカー場及び野球場陸上競技場を総合グラウンドに整備してはどうか。

答 市民にとって、有意義な施設として有効活用が図れるよう、引き続き地元自治会等のご意見を十分に伺い、兵庫県に提案、要望していく。

問 今後3ヶ年の税収見込み額をどのように予想する。

答 平成21年度までに、102億8170万円を発行し、その事業の年限に応じた償還計画を作成する。



質問者 松下信一郎議員

「行政改革」は順調か

「行政改革加速アクションプログラム」策定の主旨には、たつの市の財政状況は、実質公債費比率

や経常収支比率などの各種財政指標において、おおむね健全に推移しているが、これらの指標をさらに向上させ、後世に禍根を残さない健全な財政運営を目指し、行財政改革を断行していかなければならないと書かれている。

このような決意を持って取り組んだ「平成20年・21年」は、どのような状況なのか、5つの重点目標について「PDCA」の観点から問う。

1番目の目標

問 経常収支比率87%台を目指すに対して、20年度決算結果では89・8%であった。更なる改善は望めるのか、比率が低下

すると市民にとってどんなメリットがあるのか、わかり易い説明を望む。

答 この比率は、一般家庭における「エンゲル係数」のようなもので、率が低いほどお金に余裕があり、いろいろな事業を実施できることになる。以前は75%程度がのぞましいとされてきたが、どの自治体も厳しい財政運営となっている。兵庫県下でみると本市は5番目にいい数値だが、人件費は減少するもののさらなる改善は難しいと考えている。

2番目の目標

問 起債残高を平成24年度末に870億円まで縮減するところだが、平成20年度末では968億円であり1年間で15億円の縮減であった。目標達成には、1年で22億円を縮減していかなければならない。今後の対応策はどうするか。

答 平成22年度末で残高947億円、21億円の縮減と見込んでいる。毎年70〜80億円の償還をしな

がら、新市のまちづくりのため大型プロジェクトを進めてきた。政権交代により、国・県の財政補助削減も予測されるので、今後は事業を精選し、真に必要なもののみ実施することで、市債発行の抑制につとめ、残高を縮減していきたい。

3番目の目標

問 実質公債費比率15%の堅持に対して、20年度決算結果で14・7%となっている。今後このような数値で推移できるのか。

答 平成22年度も同程度になると予測している。

4番目の目標

問 全基金保有高70億円の維持できるのか。

答 平成22年度末見込みで110億円を予定しており、平成22年度予算において財政調整基金の取崩しは行わないこととしており、基金残高の維持に努めていく。

5番目の一般市税収納率の向上については紙面の都合上かつあいます。